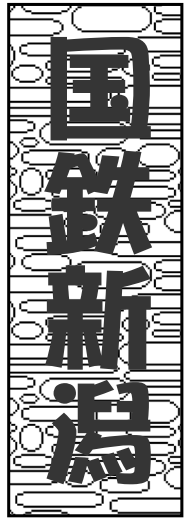


# 全体を押し上げる闘いを

## 第20回関東貨物協 定期委員会



NO. 617  
発行  
07・11月10日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者 守橋久仁雄  
編集責任者 宣部 教



奥村議長  
あいさつ

○分割民営から20年が経ち、21年目に入った。今まで厳しい闘いが展開されてきた。3つの課題について闘ってきた。

①不採用事件について～全国大会で確認（四者四団体の体制で闘う）それを堅持し全力を上げて取り組んでいく。解決局面をつくっていく。

②貨物会社に対して～差別攻撃をやっている。昇進関係は中労委で和解協議が進んでいる。健全な労使関係へ、調査から協議へと進んでいる。やっとスタートラインに立った。1次試験の合格率は42%・昨年は48%だった。2次の合格は～結果から判断・分析していかなければならない。和解協議だけの闘いだけでなく全体を押し上げる闘いをつくっていく。

③組織強化・拡大について～組織人員が減少する。何としてもくいとめていく。国労の正しさから東京で復帰者があった。それを確信して闘いを進める。全力を上げる。組織拡大は労働条件改善の実現に向けた闘いだ。

2007ニューストリーム～経常利益が35億円、昨年の2倍になっている。賃金闘争～怒りをもって反撃していく。新人事賃金制度が提案・導入の危機。全職場で断固はねのけて取り組みを進めていく。



第二十回関東貨物協定期委員会が十一月三日十三時よりエリア本部三階で開催されました。開会あいさつの後、東京の和泉委

●夜間作業が月にまたがり翌月にくいこむ作業があった。労基法違反ではないか。超勤・代休などさまざまな整理によって不公平になる。月にまたがる勤務指定はしないよう申し入れる。

○脱線事故、枕木の状態について宇都宮では四十三線区が整備基準に違

### 全体の意見

高野書記長、全貨協・笠井事務長、東北貨物協・木村議長などそれぞれ情勢報告を含め、あいさつがありました。吉田事務長の方針提起、その後十名の委員から職場の現状や闘いの報告など活発な討論になりました。

員を議長に選出し、奥村議長のあいさつ、来賓あいさつでは、エリア本部



●組織問題～現場で二人配属になったが、五日町の研修所へ加入した。貨物労が一時間のオルグを実施し、その時に貨物労へ加入、配属前に加えさせた。

●保全職場の問題点①新しい保全体制についても一度見直しを、踏み込んだ交渉を②検査修繕業務について可能なものは直営に戻す③検査周期の延伸がある・トロリー線の異常磨耗で離線が発生している④二人体制では管理能力が無い・検査結果のごまかしがある⑤設備の老朽化・技術継承に不安。要員不足で計画どおり検査ができない。など多くの問題点がある。



○ダイ改～長野の現状について、EH200が十五両導入された。来年三月に、さらに三両導入する計画がある。EF64が四十五両あったのが減車になり0になるおそれがある。EF64を確保して欲しい。要員を確保していきたい。要求として提案できるか。

# 全体の意見

●貨物の和解について現場の運動が弱体化になるのでは、会社の施策へ参加していくのか。そこから差別が発生するのではないか。昇進く公平・公正へバランスを。結果だけ分析するのはなく現場の実態を調査して見直すべきだ。

○労働条件改善の団交・交渉経過について会社側の回答に変化が無い。前進させる要求を組み立てて欲しい。

●年休闘争く三月ダイ改で八王子派出は要員が△2・ヨビ1。欠員の状況なのにW泊がある。休養が取れない。一名補充し作業ダイヤを見直す休養が取れるダイヤが実施されない。七月に労基署へ申し入れた。会社側は時



期変更権を行使した。強硬な姿勢。九月二十日から年休闘争を実施した。会社は指導員を二名交番に入れた。年休闘争は闘える。内容は私用とした。(年休請求時に理由を記入している、それによって優先順位を決めるく年休抽選)理由が私用なため請求者

## 議長集約

### ①安全・安定輸送・労働条件について

保全職場～系統別の交流会を開催し職場の闘いの交流は要求の前進につながる。運転職場の欠員状況・乗務員の年休取得が困難。年休闘争の実施から要求の前進、それによって要員配置が実現した。重要な闘いだ。欠員問題を解消していくために要員闘争を拡大していく。転勤問題～勝山さんが戻った。川崎派出の要員確保も実現した。確信を持って闘いを取り組んでいく。

②和解について～会社側に対して和解条件をしっかりとって要求を迫っていく。全体で議論し調査し前進へ。

③組織拡大～国労の組織状況について、この1年間必ず拡大を達成するよう要請する。

④春闘・賃金闘争～国労の統一闘争として取り組まれているか。工夫した取り組みが地方でも実施されている。全職場から前進を図っていく。



## 新役員体制

- ★議長 齊藤 勝 (関東保全技術センター)
- ★事務長 吉田 秋雄 (新座貨物ターミナル駅)
- ★副議長は、各地方から選出されます。



全員が一番になった。会社は不参にせざる年休処理だった。十一月から抽選が実施される。結果を今後追及していく。

○要員不足だったが、貨物協の交渉で一名補充・来年一名補充となった。自連の検査の作業は残業が続いている。厳しい労働条件、腰痛が発生。新人教育について要員不足。管理者の技術力

が無く指導できない実態だ。六〇才達成者がこれから発生する。残留する予定。組合費が高い機関との交流を。



●交渉のあり方く年度事案・ダイ改事案について早く提案を。現場で充分な討議をしたい。賃金闘争く貨物だけがやっているような春闘だ。統一要求・統一闘争を明確に方針書に明記を。和解協議、五回の協議についての報告がされていない。具体的にどうなっているのか。

○着替え時間を勤務時間にく本社本部間で団交・導入すれば要員不足が発生する。会社は法令違反を認めているのく取り組みの強化を。

●清水駅出場遅延く乗務停止に毎月予備となっている。年休取得も困難。嘱託交番作成・大井機関区から新鶴見機関区へ移動させられた。やっとなれたのに大井へ戻す、会社側の無責任な対応。

●昇進試験く合格率が上がらない。不合格について、区長は成績が高かったからと。次への受験者には厳しい状況だ、差別を受けている。これから改善していくこと。